

マスコミ各位

平成30年10月24日（水）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、仁平

電 話：098-866-2215

風しん患者の発生状況について(県第三報)

1 報道関係者の方へ

平成30年、県内では1月1日から10月16日までに風しん疑い症例21名について遺伝子検査を実施し、3名の風しん患者を確認しています。加えて、医療機関の検査により、1名の患者を確認しています。今回、10月17日から23日までに疑い症例7名の遺伝子検査を実施し、新たに1名の患者を確認しましたので、お知らせします。患者情報の詳細は、「2患者情報」のとおりです。

風しんは、感染しても症状が分かりづらいことから、県内には潜在的な感染者が存在する可能性があります。これら感染者からの感染拡大に加え、首都圏を中心とした風しん流行が継続していることから、県外から風しんウイルスが持ち込まれる可能性も危惧されます。今後の感染拡大防止のため、以下の点について、県民への注意喚起を宜しくお願い致します。

なお、当面の間、県内で新たに風しん患者が報告された場合は、週に1回、国立感染症研究所の風疹急増に関する緊急情報が更新された翌日を目安に、プレスリリースを行う予定です。

- 風しんに感染しないためには、予防接種が重要です。風しんの定期予防接種対象（第1期：1歳になってから2歳になるまで、第2期：小学校に入学する前の1年間）の方は、早めに予防接種（MR ワクチン）を受けましょう。
- 妊婦は予防接種が受けられません。風しんに対する免疫が不十分、あるいは不明な妊娠初期の方は、なるべく人混みを避けるとともに、風しん流行地への訪問予定のある方は訪問延期をご検討ください。
- 妊娠を希望される方や妊婦の同居者（夫、子どもなど）で、ワクチン接種歴が1回以下の方は、かかりつけ医に相談し、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。
- 30代から50代の男性は、風しんの免疫が不十分な世代と言われています。この世代の方は、抗体検査や予防接種について積極的にご検討ください。

- 風しん患者の感染経路は飛沫感染及び接触感染です。常日頃から、手洗いや咳エチケットなどの感染防止対策を実施して下さい。
- 発熱や発疹等の症状から風しんが疑われる場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。また受診の際は、マスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

2 患者情報

患者 No.	年齢	性別	居住地	予防接種歴	発熱日	発疹出現日	検査確認日	推定感染源	備考
1	40代	男性	那覇市	不明	10/3	10/4	10/7	不明	
2	40代	女性	宜野湾市	不明	10/2	10/3	10/9	県内	
3	20代	女性	那覇市	無	10/8	10/7	10/12	県内	
4	40代	男性	那覇市	不明	無	10/8	10/12	県内	医療機関の検査で確認
5	50代	男性	沖縄市	不明	10/21	10/21	10/23	県内	

感染症法の趣旨に則り、患者やその家族・関係者について、本人等が特定されないことがないように、格段のご配慮をお願いします。

なお、全国の風しん患者数は、平成30年第1～41週までに1,289名の患者が報告され、第40週までの累積報告数から186名増加しています。主な報告地域は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県です。

3 予防接種関連情報

平成30年10月16日時点での県内卸業者における、MRワクチンの在庫は、約2,900本が確認されています。

県内の予防接種実施医療機関については、沖縄県医師会ホームページの他、地域保健課ホームページ「風しん関連情報（2018年）」に、小児個別予防接種受託医療機関を掲載している地区医師会のホームページのリンクを貼りましたので、ご参照ください。

なお、予防接種を希望される場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、MRワクチンの接種が可能か確認の上、予約をし、受診をお願いします。

4 医療関係者の皆様へのお願い

医療関係者におかれましても予防接種歴の確認をしていただき、未接種者はワクチン接種を検討してください。加えて、院内での感染防止対策の徹底を宜しくお願いします。

また、風しんを疑った、もしくは診断した際には、管轄保健所へ報告を行うとともに、接触者の確認や、感染拡大防止の対応をお願い致します。

5 風しんについて

原 因：風しんウイルス

潜伏期間：14～21 日（平均 16～18 日）

周囲への感染可能期間：発疹が出る 7 日前から 7 日後まで

主な症状：潜伏期間の経過後、発熱、発疹、リンパ節腫脹（ことに耳介後部、後頭部、頸部）が出現するが、発熱は風しん患者の約半数にみられる程度。また症状の現れない不顕性感染が、15～30%程度存在する。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊婦が妊娠初期(約 20 週まで)に感染すると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風疹症候群」になり、目や耳、心臓に障害を持つ可能性がある。

感染経路：飛沫感染、接触感染

感染症法：五類感染症

予 防：予防接種が有効

6 参考

地域保健課ホームページ：風しん関連情報（2018 年）

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiikihoken/kekkaku/huusin2018.html>

国立感染症研究所ホームページ：風疹急増に関する緊急情報(2018 年)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/8278-rubella1808.html>

厚生労働省ホームページ：風しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/

厚生労働省ホームページ：風しんの感染予防の普及・啓発事業

（「なぜ大切？風しんワクチン」に、生年月日による風しんワクチン接種状況が掲載されています）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/vaccination/